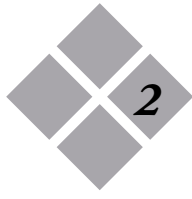


第2章

グランドデザインの基本方針と施策体系



2 グランドデザインの基本方針と施策体系

社会経済情勢が目まぐるしく変化している昨今、時代の要請に見合った水道サービスを安定、持続して確保していくためには、将来に向けた新たな理念、新技術、今日的視点に立ったお客さまニーズ等を勘案し、現有の水道システムに対する継続的な改善方策を効率的に講じていく必要があるとともに、これまでの水道事業の枠組みから脱却し、新たなシステム構築を視野に入れた新機軸の施策を適宜導入していくことが重要になってきている。

本グランドデザインは、本市水道が当面する課題への対応から、より中長期的な課題への対応に至るまでを包括した水道版のマスタープランであり、本市水道が果たすべき社会的な役割・責任を理念及び使命として掲げながら、これらを達成するために必要な施策を戦略的かつ体系的に推進することによって、内外から集まる人々の活動や活発な都市活動が展開される円熟した地域社会にふさわしい水道づくりをめざすものである。

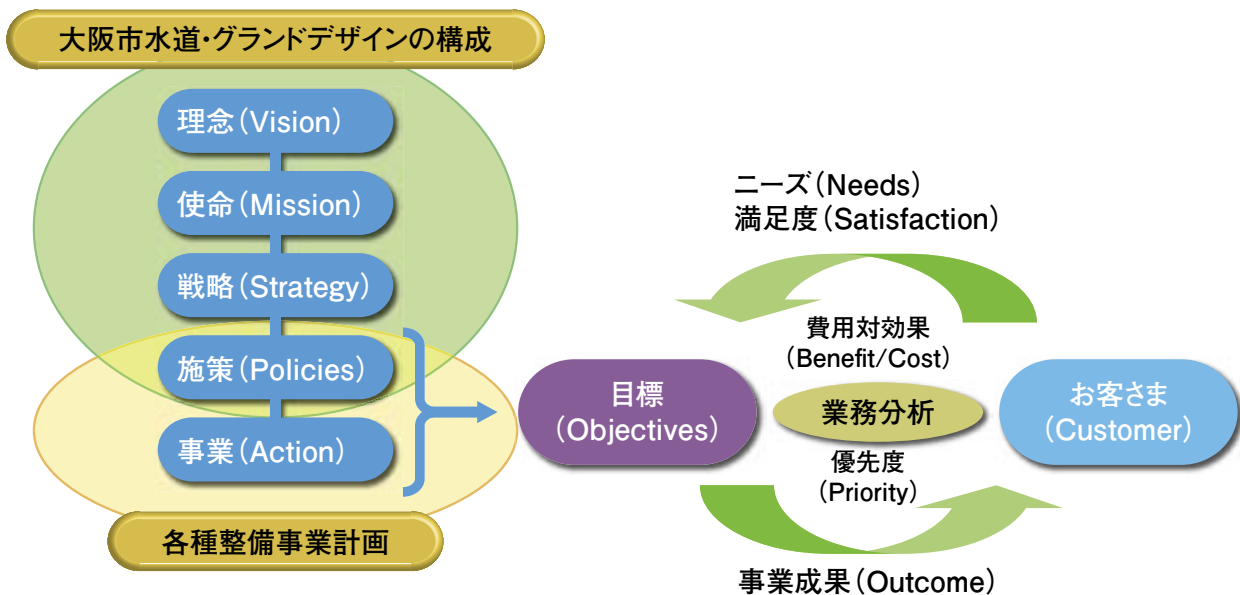


図2-1 大阪市水道・グランドデザインの推進

2.1 基本方針

市政改革の一環として策定した「水道局経営方針(案)」の基本理念は、本市水道が果たすべき普遍的な役割を示したものであるため、本グランドデザインにおいてもこれを理念(**Vision**)として掲げるとともに、この理念を支える本市水道の技術的な使命(**Mission**)として、施設更新、水質管理、安定給水、環境対策、国際・広域化、技術開発の各項目を設定する。

また、グランドデザインに掲げる理念と使命の達成に当たっては、これに寄与する様々な施策を戦略的に推進するため、「施設整備戦略」、「危機管理戦略」、「地球環境戦略」、「技術拠点戦略」の4つの戦略(**Strategy**)を掲げる。

理 念

Vision

- ・お客さまに安全で良質な水を安定的に、より安い公正な料金でお届けする
- ・日本の水道事業の発展に貢献する

使 命

Mission

施設更新	既存ストックを最大限に活用した合理的な水道施設の整備
水質管理	リスクコミュニケーションに基づく安全で良質な水の供給
安定給水	都市の利便性と安全性を支える信頼性の高い水道システムの構築
環境対策	快適な都市環境の創出に資する水道資源の多面的な利活用
国際・広域化	グローバル的・広域的視点に立った水道事業の展開
技術開発	低コストで高い付加価値が期待される新たな水道技術開発の促進、技術の継承・人材育成

戦略

Strategy

施設整備戦略

柔軟な発想から本市水道の将来の姿を展望しつつ、水道アセットマネジメントに基づく最適な施設更新により、技術・財政面で持続可能な先進的な水道システムの再構築を図る

危機管理戦略

施設の相互融通性を活かした合理的なシステム管理により、想定すべきあらゆるリスクに備え、安全で良質かつ低廉な水をお客さまに安定してお届けする

地球環境戦略

「環境先進都市大阪市」にふさわしい省エネルギー・省資源対策の推進に加え、水道資源を活用した新たな方策により、地球環境・都市環境・地域社会への貢献をめざす

技術拠点戦略

高度な水道技術の醸成により、安全とおいしさに対するお客さまの信頼に応えるとともに、効率的で多角的な事業経営を推進する

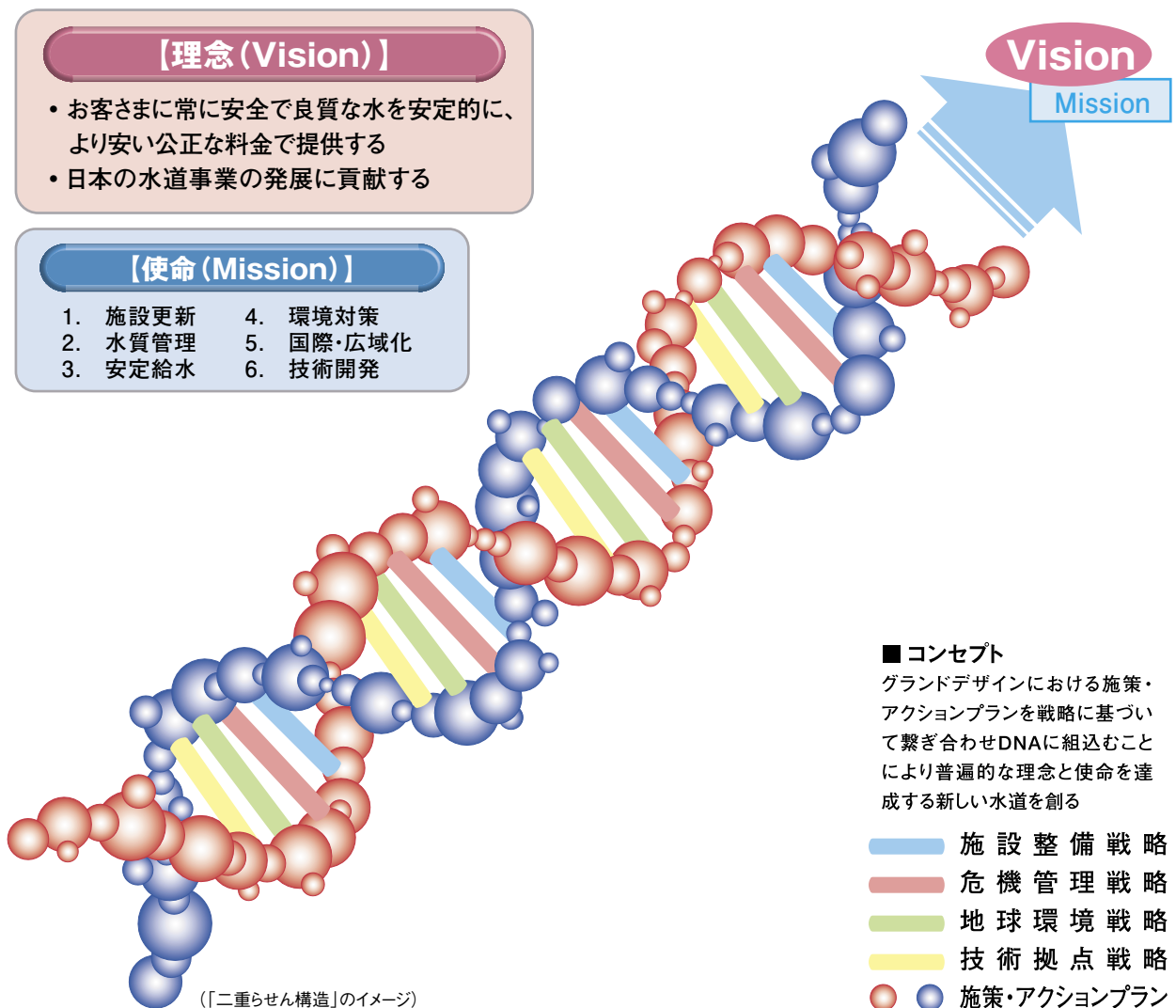


図2-2 新しい水道像をめざしたDNA改革

2.2 施策体系

本グランドデザインに基づく事業計画の立案は、

- ◆「計画」 今後当面する10ヵ年[目標年次:平成27(2015)年度]
- ◆「構想」 21世紀中葉

の視点に立ってこれを行うこととし、4つの戦略に基づく施策体系により着実に事業を推進する。

また、本グランドデザインにおける諸施策については、浄水施設整備事業、配水管整備事業、給水装置整備事業をはじめ、本市水道で行う各種施策に反映させながら、これらを計画的に推進するとともに、その推進に当たっては、社会資本の新たな管理・運営手法として、「アセットマネジメント」によるストックマネジメントシステムを導入し、データモデルの構築はもとより、業務モデルや機能モデルについても検討することによって、お客さまにとって高い費用対効果を伴う効率的な事業展開を図る。

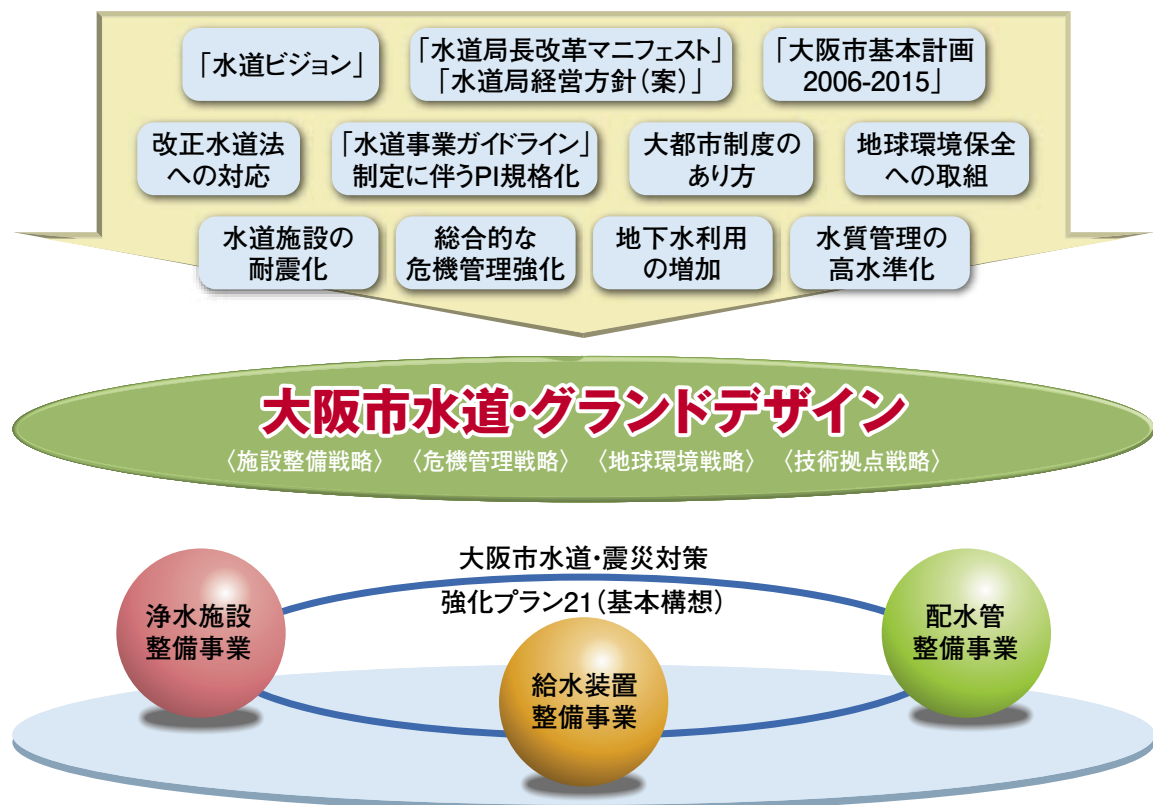
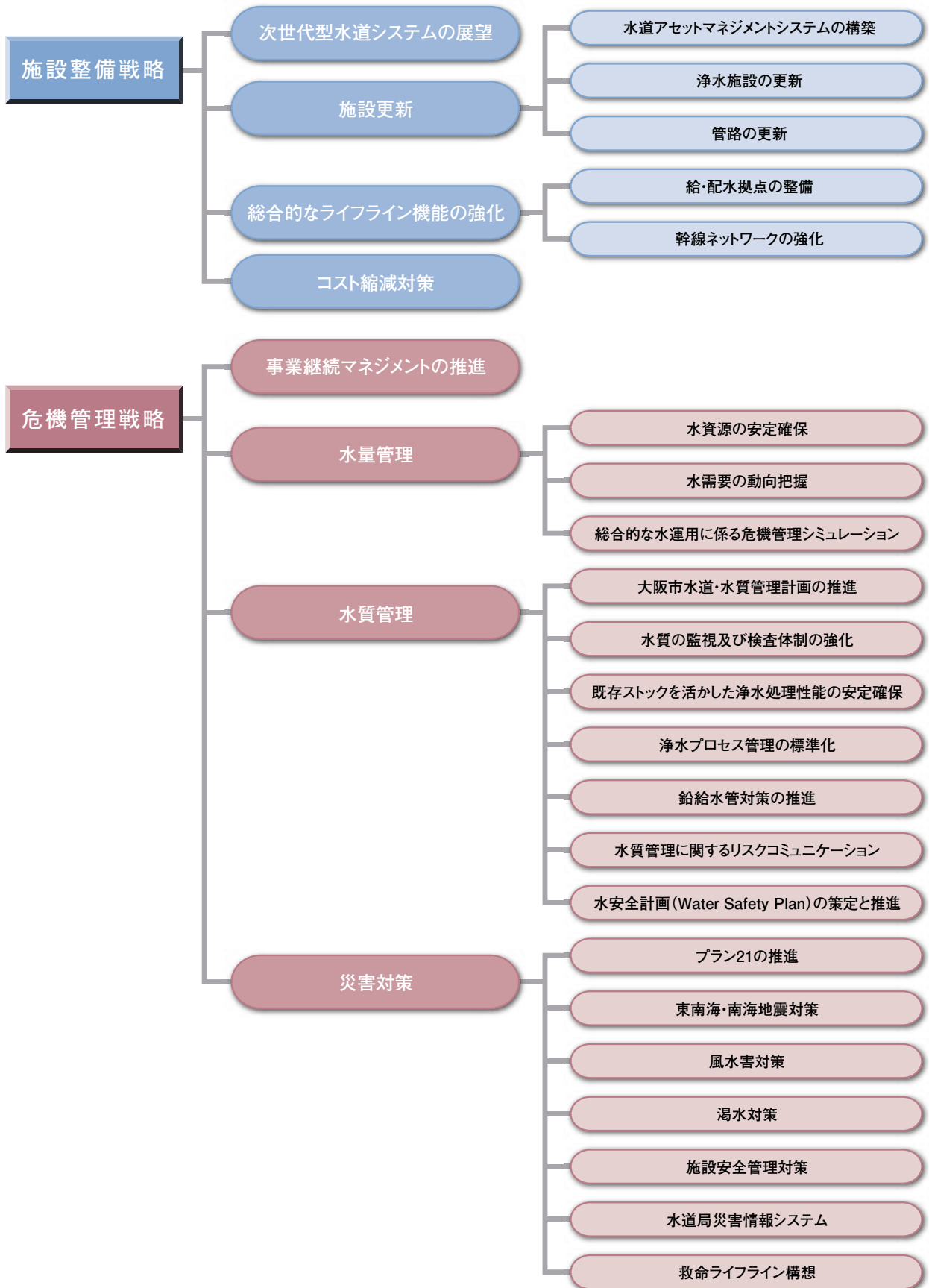


図2-3 大阪市水道・グランドデザインの位置づけ



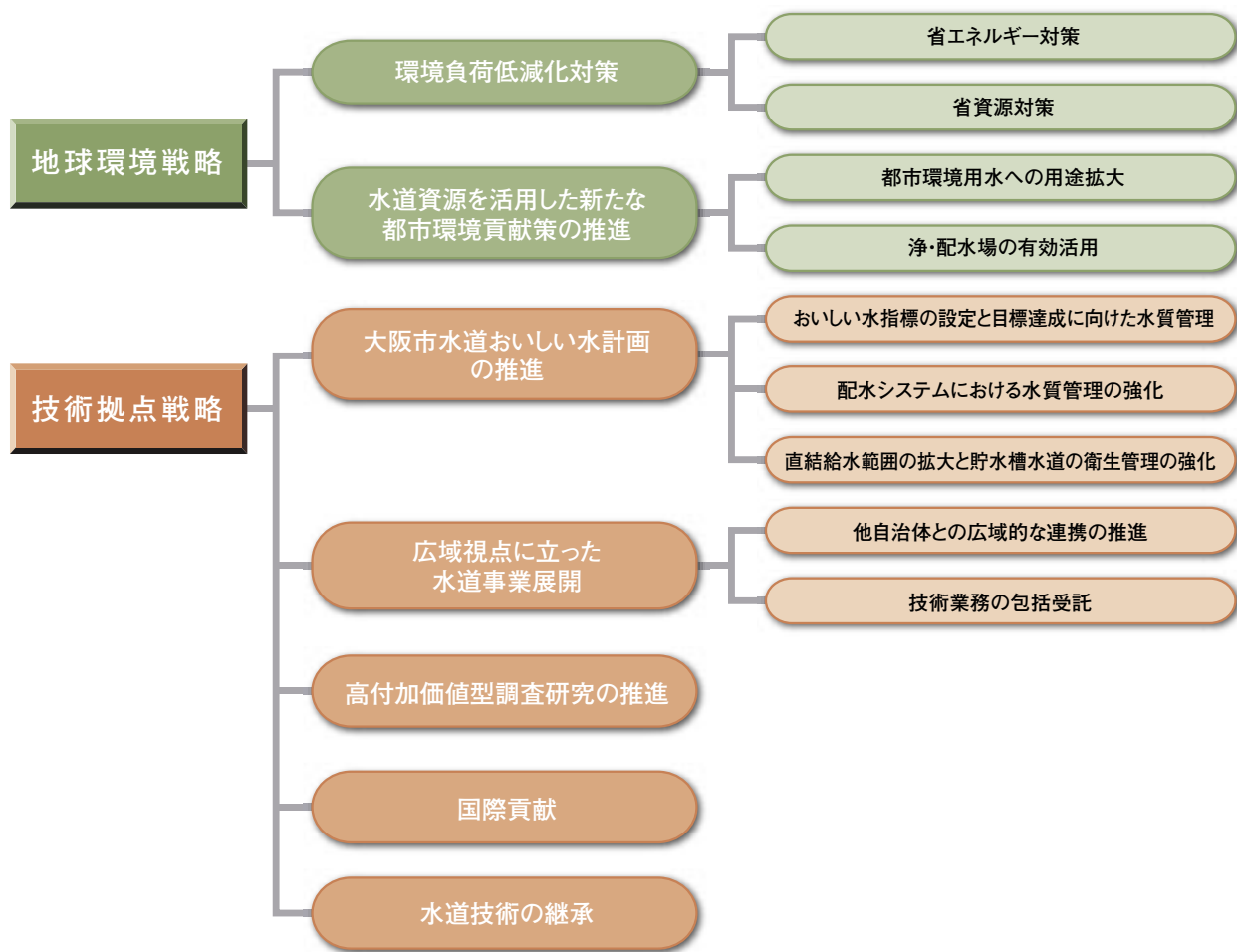


図2-4 4つの戦略に基づく施策体系

2.3 水道アセットマネジメントシステムの導入

「アセットマネジメント」は、もともと金融分野において、個人の金融資産をリスクや収益性を勘案しながら適切に運用し、その資産価値を最大化するための活動を示す概念である。

近年、こうした概念に基づく手法は、資本ストックの運用・管理に必要な費用をできるだけ小さく抑え、質の高いサービスを提供することにより、資産価値を最大化するためのツールとして注目されてきている。

国等においても、高度経済成長期に大量建設された社会資本を中心に大規模補修や更新等のニーズが顕在化する中、近年の厳しい財政制約のもとで適正な施設整備水準を確保していくため、インフラ分野への本格導入に向けた調査研究が行われ、道路・橋梁の分野では、こうしたマネジメントシステムの一部導入が他の分野に先駆けて進められてきている。

本市水道においても、事業者としてのアカウントビリティを向上させながら、施設更新をはじめ、新たな水道システムの構築に向けた諸施策を体系的に推進していく必要があるため、「水道アセットマネジメントシステム」を導入し、計画部門から設計・施工部門、維持管理部門に至る一連の流れの中で、客観的指標に基づく定量評価により、リスク並びにコスト分析に基づく明確な意思決定に資するものとする。

マネジメントサイクルにおける各プロセスでは、事業の効率性及び効果性、アカウントビリティの確保を前提とした業務の遂行を図る。

Step1 アカウントビリティの確保

水道事業に対する理解を得るため、お客さまへの情報提供、広報活動を通じて、水道水の品質や各種施策に対する満足度・期待度を把握し、これらを事業目標に反映させる。

Step2 事業目標の設定

お客さまの満足度・期待度、リスク、社会・経済動向など、水道を取り巻く各種要因を踏まえ、中・長期視点から、お客さまへ提供すべきサービス水準及びその水準を達成するために必要な管理水準を施設あるいは施策ごとに設定する。

Step3 資産の現状把握

既存施設の物理的な状況と管理履歴等から、現在の資産状況を個別に把握する。

Step4 資産分析

既存施設の将来予測及びライフサイクルコスト分析から、個別の維持・補修・更新の適正な時期と規模を検討する。

Step5 事業計画の策定

各施策の優先順位や最適な組合せについて、更新・整備を計画する施設の整備効果や予算等を総合的に判断し、費用対効果の高い事業計画を策定する。

Step6 事業の実施

事業目標を達成するため、より一層のコスト縮減や環境負荷の低減に向け、新技術の導入などを積極的に行いながら事業を推進する。

Step7 事業の評価

客観的な業務関連指標をもとに各種施策を定量評価し、事業計画へのフィードバックやフォローアップを図る。

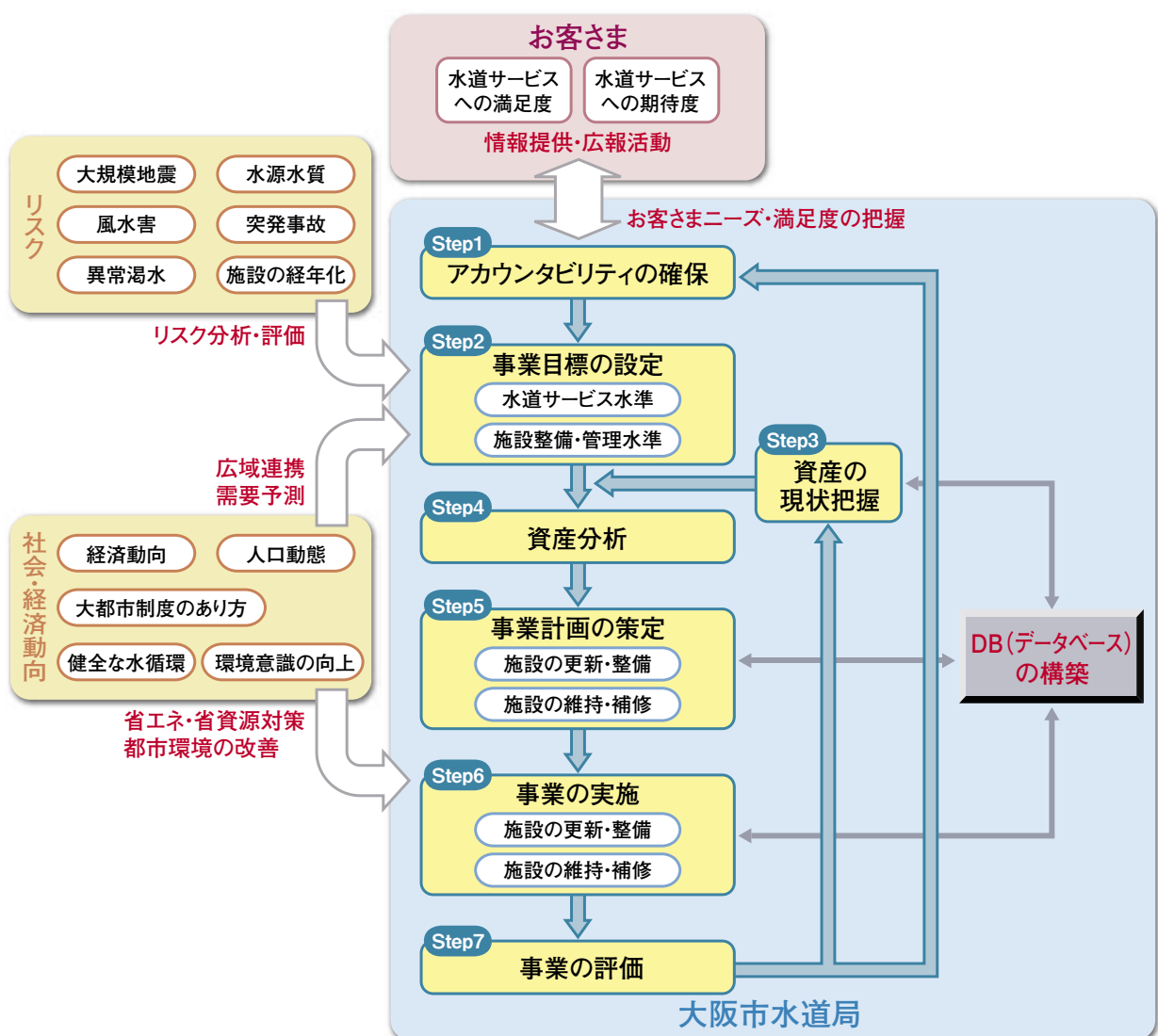


図2-5 水道アセットマネジメントシステムの運用

2.4 施策の推進

本グランドデザインにおける4つの戦略及びこれを構成する諸施策の推進に当たっては、おいしい水計画の推進や水質管理に関するリスクコミュニケーション、インターネットホームページの活用を交えつつ、施設整備事業の推進、毎年度における水道局経営方針の策定と併せたPDCAサイクルの仕組みを確立する。

これによって、本グランドデザインの進捗管理を図るとともに、恒常的なお客さまの視点に立ちながら、水道を取り巻く状況の変化に併せた補強、改訂を適宜行う。

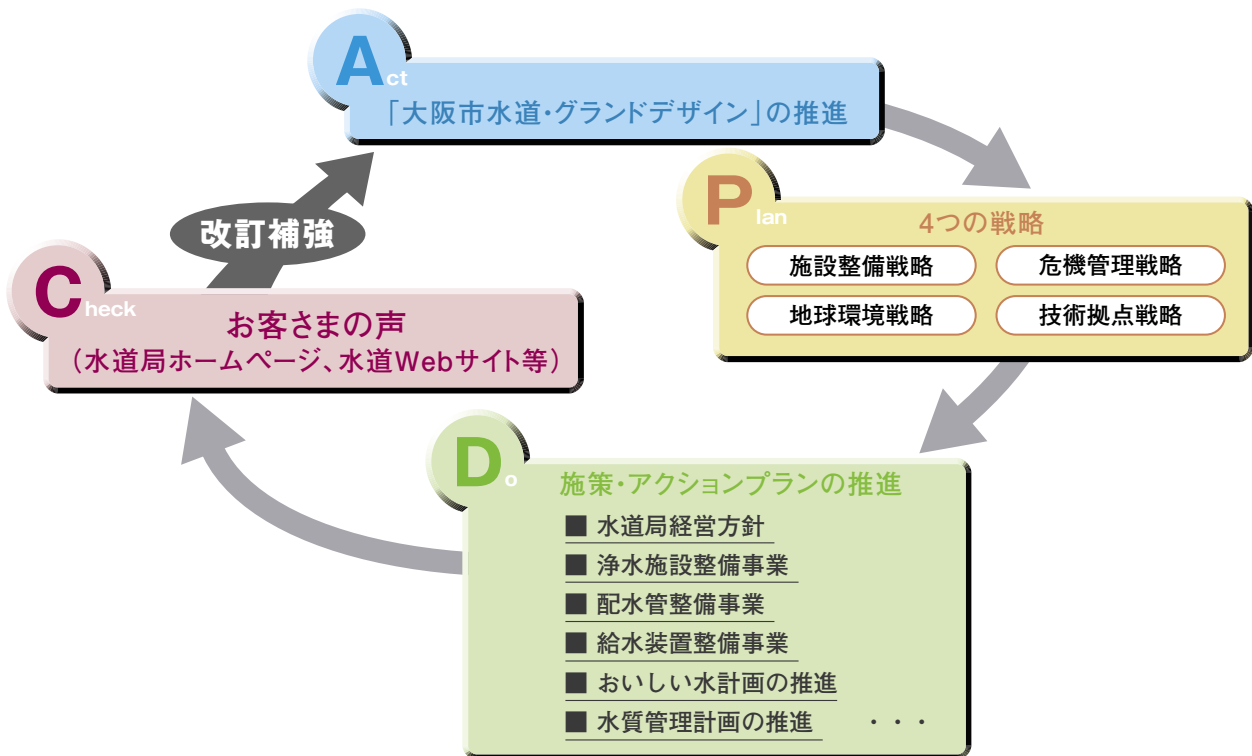


図2-6 施策推進のPDCAサイクルフロー